



読書活動への扉を開く！

No. 34

桑村小学校 令和5年7月7日 文責：井村 英貴

読書の効果

今回は、読書の効果について考えたいと思います。

効果の一つ目は、**習っていない漢字も読めるようになる**ことです。と言うのも、本には習っていない漢字がたくさん出てくるからです。そして、何度も目にして読めるようになっていた漢字は、授業で書き方を習う時にも早く覚えることができます。

二つ目は、**いろいろな言葉を覚える**ことです。言葉を覚えることは、概念を知ることです。本の中には、子どもの日常生活では出会わない難しい概念がたくさん出てきます。そういう言葉や概念を知っていると、勉強（学習）の時に、とても役立ちます。また、**想像力も高まります**。

三つ目は、**知識が増える**ことです。本は知らないことをたくさん教えてくれます。しかも、テレビでは得られないような、系統的で深みのある知識が身に付きます。

四つ目は、**自分で考えられるようになる**ことです。本を読んでいろいろな知識や考え方を知ると、それらを比べたり繋ぎ合わせたりして、自分で考えるようになります。考える材料がないと、自分で考えることはできません。

五つ目は、**人の気持ちが分かるようになる**ことです。小説や物語を読むと、登場人物の気持ちが必ず書いてあります。こういう言い方をされると人は悲しくなるとか、こうやってもらおうと嬉しくなるといったことが分かってくるのです。これが人の気持ちを**思いやることに繋がる**のです。

六つ目は、いろいろな文章表現にふれることで、**作文での表現力も豊かになります**。さらに、**ストレス解消**にも効果があります。

本を読む子は、**自分で伸びていける**子です。3・4年生頃まで勉強を苦手と感じている子でも、読書が好きな子は、その後ぐんと伸びる可能性があります。5・6年生になると、蓄えてきたものがだんだん発揮され始め、中学生になるとじわじわと成績が上がってきます。高校・大学・社会と進むにつれて、その効果は明らかになってくるのです。

テレビやゲームを消して、保護者の皆様も子供たちと一緒に読書をしようではありませんか。

----- 切 り 取 り 線 -----

「読書活動の扉を開く」（7月7日号）を読んでの感想
()年()